

「高次脳機能障害になって・・・」

～それぞれの立場からできること～



入院前の生活



発症から入院まで

急な発症

聞いたことのない病名

続く状態変化



回復期病棟入院中の状況や気持ち

入院当初の状況	本人の思い、様子	妻の思い
・ 高次脳機能障害の症状 記憶障害、注意障害 ・ 病識の低下 ・ 左視野欠損	・ なぜ入院しているのか。 早く帰りたい ・ 感情的で落ち着かない 	・ どこまでよくなるのだろう...（不安と期待）
退院時の状況	本人の思い、様子	妻の思い
・ 上記症状の継続 ・ 相談支援事業所、精神保健福祉手帳、定期通院の案内を受ける	・ 感情の波は、入院当初よりは落ち着いた ・ 自分は帰って問題なく生活できるはずだ。	・ 退院後の生活のイメージがつかない。

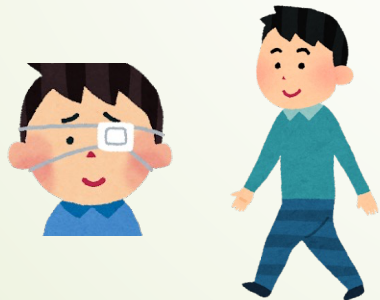
退院後の生活

退院してからの1年間

- ◎ 記憶障害の代償
→ スケジュール管理・スマホの活用



- ◎ 視野欠損から歩行の不安
→ 散歩で不安を軽減、体力づくり



目標の再設定

- ◎ 傷病手当金の終了
→ 経済面の不安



- ◎ 周囲から今後の計画や就労の確認
→ 何をどうすすめよう...



相談支援事業所への相談

(相談支援事業所からみたご本人・ご家族)

ご本人の様子

- ・自分の事を言葉にできない
いつらさ
- ・自身のことを妻に聞かない
と分からない不安

→**表現しきれない思いを
抱えているご様子**

ご家族の様子

- ・記録から本人夫の代弁役
- ・医療機関や様々な窓口へ
何度も足を運んでいる
- ・主治医等から「短時間の
就労系の福祉サービス
利用を勧められた。

→**よい方向に進めていき
たいがどこに何を相談
したらいいのかわかな
らない。**

相談支援事業所が考えたこと

- ・5月31日（金）初回の面
談 本人・家族の現状や辛
さを聴取
- ・6月3日（月）相談支援事
業所内で相談内容の共有。

→**患者・家族会の提案**



高次脳機能障害支援室・サロンへの期待

面談の効果や難しさ...

何を提供することが本人・ご家族にとってよいのか...

ご家族・ご本人がよりよい方向になるために今の現状を少しずつ理解したり、悩みを共有する場所が必要？！

➡ご本人・家族が言葉にできないつらさや思いを少しでも表現できる場所を見つける！

高次脳機能障害支援室相談時の状況

ご本人：

「特にやりたいことはない...
いつかは働きたいけど...
見えにくさの不安がある。
疲れやすいから不安。」



妻：

「退院して1年経つし、早く働けないかな。」
「いろいろやってきたけど、これでよいのかな...」



支援室：

- ・どのくらいどのような症状があるのか？
- ・今は外出の希望はないけれど、サロンにきて頂くことは可能か...
- ・動いてみることで意欲が伴ってくることもあるか...



高次脳機能障害支援室への相談と支援の内容

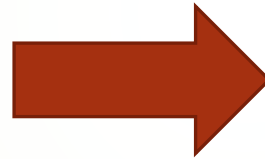
検査・評価



面談



検査結果の共有 サロンで「思いの共有」



共有・話し合い

活動の検討



サロンの参加・症状を共有してからの思いや変化

ご本人	ご家族	相談支援事業所
・覚えてない事がほとんどだが、嫌がらず参加 ・馴染めず、他の参加者と自分は違うなという印象をもたれている様子。 → 本人の認識度、受容度の理解へつながった	・家族の思いを聴いてもらえて、進むきっかけになった ・症状の対応や長い期間付き合う姿勢など意見が参考になった。 → これまでの振り返りとこれからの情報収集ができた	・ご本人への理解が深まった ・選定のヒントへつながった ・役割分担と連携ができた → 選定支援の役割に専念できた

就労継続支援 B 型事業所 「大生リコピントマト農場」



現在工夫していることや目標

本人の現状	工夫していること	目標
		
作業開始わからず うろうろ	様子を見ながら声掛け	自分から聞けるようになる
作業の記憶困難	メモをとってもらう	自らメモをとり見返せる
作業が終わった報告は難しい	こちらからの確認	作業終了の報告ができる



一般就労を目指したい!!

ご本人

自分で出来ることを
増やしてほしい!!

支援者



現在の生活と目標



「家事や作業などできることを
続けている」

「楽しんでできることを見つけたい」
「目標を見つけることが目標」

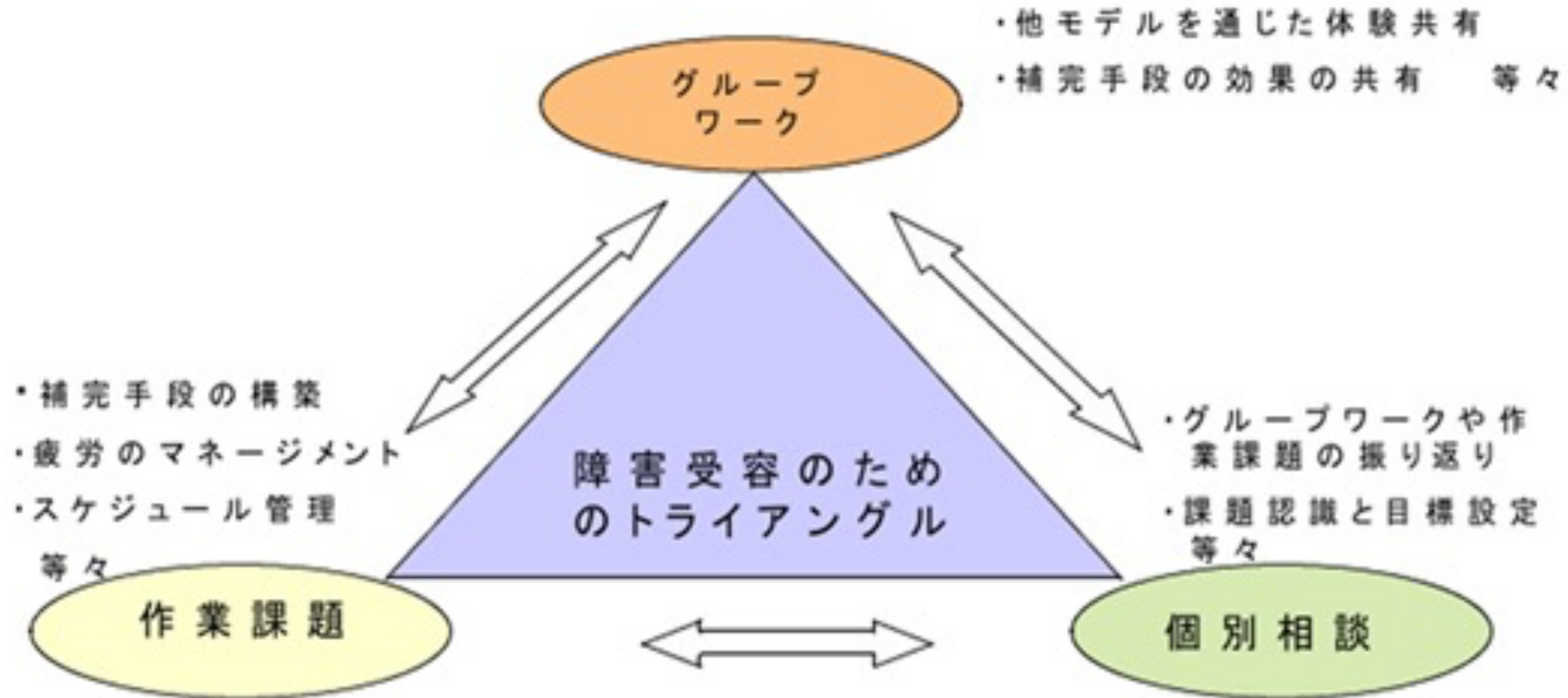
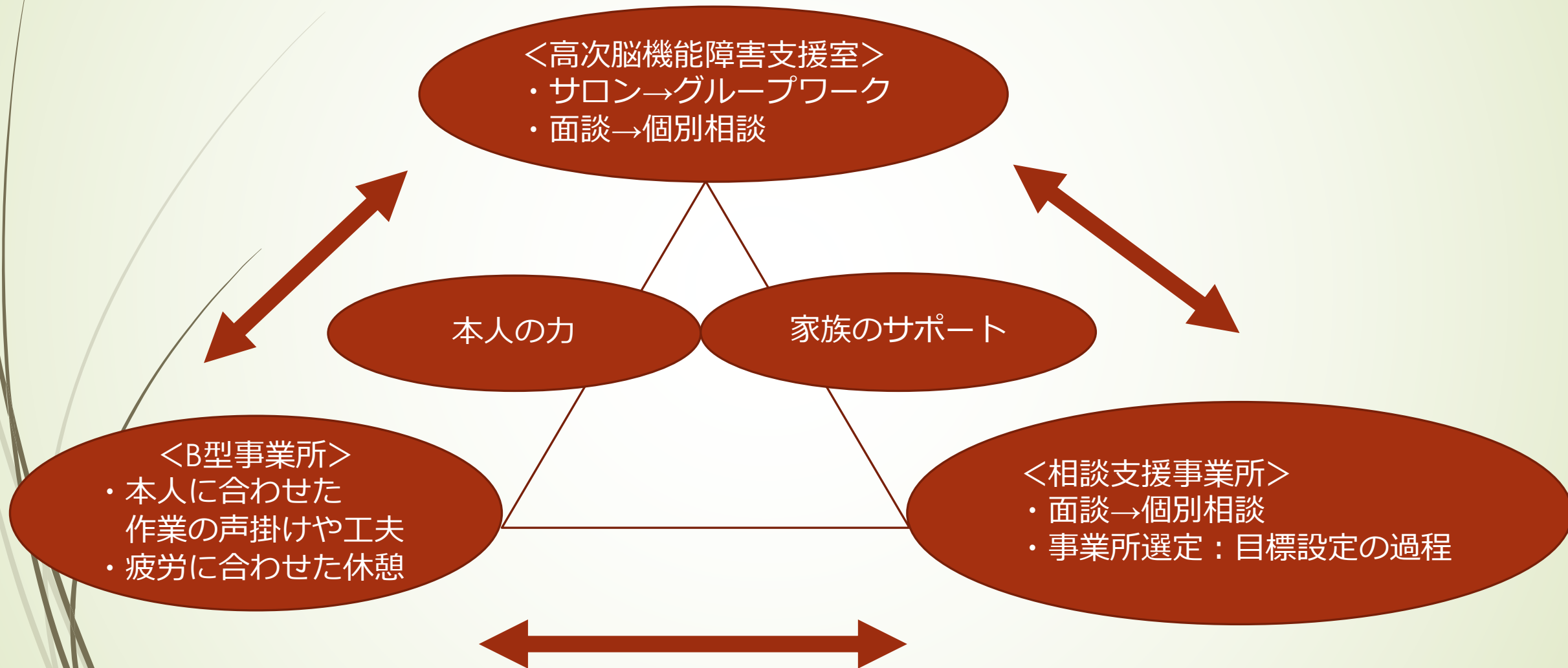
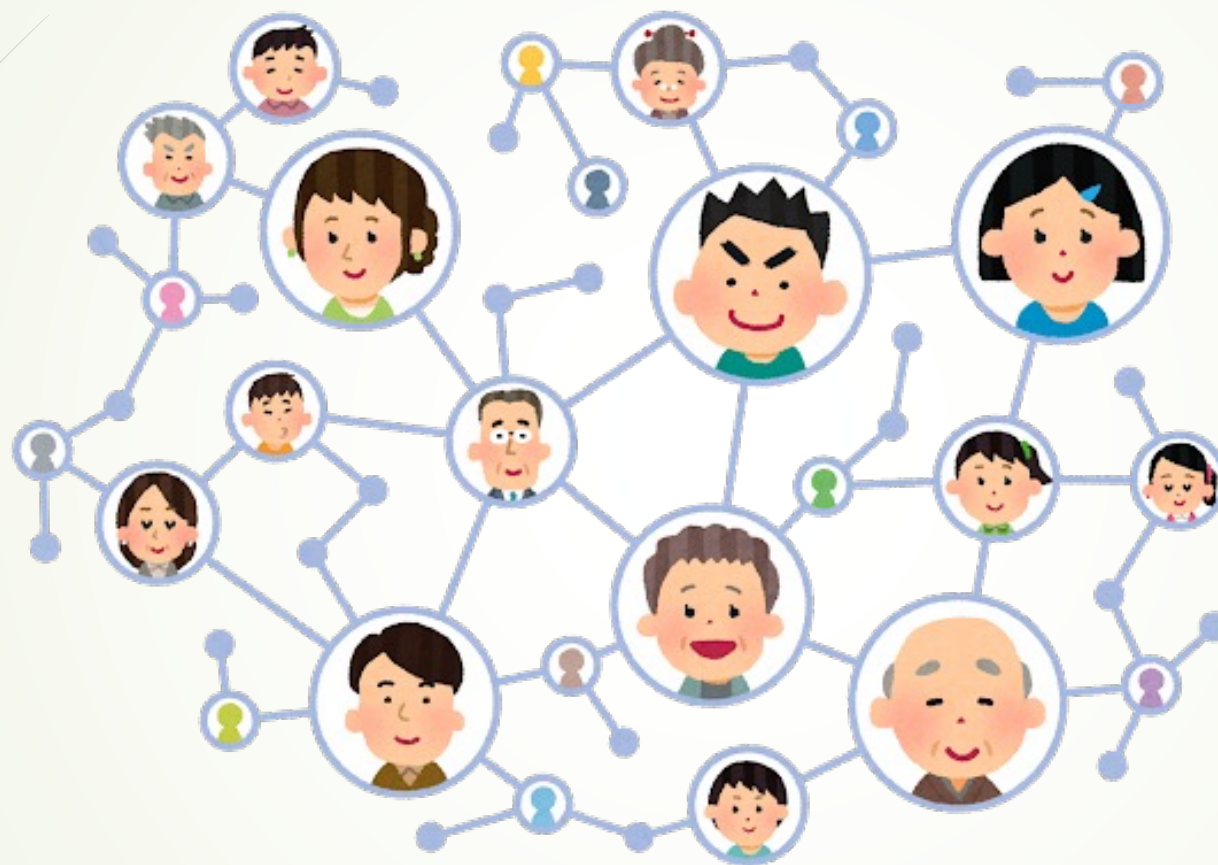


図4 障害受容のためのプログラム要素

支援と役割の循環を目指して



最後に . . .



～質疑応答～

各拠点とサロン開催日

	福島県内の各拠点	コーディネーターの配置	サロン開催頻度
① 県中	県総括及び県中支援拠点 総合南東北病院	社会福祉士 言語聴覚士	毎月第二土曜
② 県北	あづま脳神経外科病院	言語聴覚士 社会福祉士	偶数月第三土曜
③ 県南	会田病院	社会福祉士	偶数月第一土曜
④ 会津	竹田総合病院	社会福祉士	奇数月第三土曜
⑤ 相双	南相馬市立総合病院	社会福祉士	偶数月第三水曜
⑥ いわき	常磐病院	社会福祉士	奇数月第二土曜

高次脳機能障害支援養成研修のご案内

第1回：講義R6.10/20～11.3 演習11/26

第2回：講義R6.12.22～R7.1.4 演習1/4

(例)

高次脳機能障害支援養成研修カリキュラム

＜実践研修＞	◆対象：サービス管理責任者、相談支援専門員などの高次脳機能障害者支援の経験者等 ◆研修のねらい： ・多職種連携（チームアプローチ）の重要性を理解する。 ・高次脳機能障害者の支援の短期的な方向性（個別支援計画等）を立てることができるようになる。
--------	--

	時間	科目	内容
I 講義	400		
障害特性に応じた支援・地域の支援体制	40		地域における高次脳機能障害の支援体制
認知症との共通点と相違点	40	障害特性に応じた支援	認知症との共通点と相違点
発達障害との共通点と相違点	40		発達障害との共通点と相違点
小児期における支援	40	ライフステージに応じた支援	小児期発症の高次脳機能障害の特徴／復学支援
長期経過とフォローアップ	40		各ライフステージにおける高次脳機能障害の特徴／支援
多職種連携・地域連携：チームアプローチの重要性	40	チームアプローチの重要性と支援の原則	地域連携とチームアプローチ
多職種連携・地域連携：家族（きょうだい）支援・当事者家族会の活動	40	家族（きょうだい）支援・当事者家族会の活動	高次脳機能障害者家族支援
コミュニケーション支援	40	コミュニケーション支援（地域生活・職場での支援）	失語症・高次脳機能障害によるコミュニケーション障害の理解
支援の実践的な枠組みと記録	40	支援の実践的な枠組みと記録	支援の実践的な枠組み・プロセス／アセスメント票と支援の手順書の理解／記録方法
自動車運転再開支援	40	自動車運転再開支援評価・手続き	高次脳機能障害者の自動車運転再開支援に関連する法制度、運転評価、課題や留意事項などの理解
II 演習	360		
障害特性の理解と対応方法	180	1. 障害特性の理解と対応方法 2. 障害特性とアセスメント	高次脳機能障害者の心理と対応法の理解 障害特性に基づくアセスメント グループワーク（障害特性の把握と対応方法のディスカッション） 対応方法演習（ロールプレイ） グループワーク及び発表（対応方法の振り返りと支援計画検討） 強みや好みを活かす視点 環境調整の考え方 環境調整の方法 行動の記録の方法 記録の整理と分析 再アセスメントと手順書の修正 チームアプローチを学ぶ（個別支援計画作成演習） グループ検討／まとめ
環境調整による支援と記録に基づく支援の評価	180	1. 環境調整の考え方と方法 2. 記録の収集と分析	